

特集：キャラバン隊

「知的障害を体験してみる」



いきいきと暮らす～本人部会活動「FICS」～
就労支援セミナー



平成29年度累犯障害者支援研修会

12月9日(土)
道ノ尾病院 みちのおホール

前段では少年院や刑務所からの出所者を雇用し、社会復帰を支援する「職親プロジェクト」について。妹さんを殺害された経験を持つ、カンサイ建装工業(株)代表取締役社長 草刈健太郎氏から、「加害者を社会が受け入れて減らさないと、また妹のような被害者を多く生んでしまう」と、裏切られても逃がさないという覚悟で徹底的に寄り添い、再犯防止に貢献されているという講演をいただき、深い感銘を受けました。



左から坂本氏・草刈氏・伊豆丸氏

後段のシンポジウムでは長崎県地域生活定着支援センター所長 伊豆丸剛史氏の進行で、長崎新聞社報道部次長 坂本文生氏が報道に関わった「長崎の男児誘拐殺人事件の検証会議報告」を皮切りに、草刈氏の講演の内容を深化し、累犯障害者支援について、会場からの熱い質疑応答がありました。司法・行政・企業・民生委員・福祉関係者・保護者など「ゆるやかなつながり“ネットワーク”が必要である」など、多様な発見・感動を得る有意義な研修となりました。

全国大会札幌大会特別分科会 「キャラバン隊 全国サミット」

～啓発活動から学ぶ～

9月23日(土・祝)ロイトン札幌

特別分科会「キャラバン隊 全国サミット」に参加しました。100名を超える参加者がありました。

「キャラバン隊」とは、知的障害・発達障害の理解・啓発活動の一環で、主に知的障害者・発達障害者の疑似体験を行っている全国各地の啓発隊グループです。15年程前から活動している団体もありますが、今年2月に開催された「キャラバン隊フェスティバル」に全国各地のグループが集まった事でさらに拡がり、今では全国各地に36もの隊が作られているそうです。主に育成会会員保護者が中心となっています。

前半は座間市手をつなぐ育成会「座間キャラバン隊」による実演がありました。座間では2003年に活動を開始し、今まで300回以上、小学校4年生以上の小中学生から一般の方まで25,000人以上の方に講演しているそうです。

体験コーナー「ことばが伝わらない」では、「ピカチュウ王国」に来た体験者が「ピカ」としか話さない人に戸惑いつつも、絵カードなどでだんだん何をすればいいかが分かる体験を通じて、知的障害のある人には、周りの人が何をしたいのか分からない事や、理解してもらうためにどうしたら良いか、という事を考えることができました。



言葉だけでは分からなくても、絵や写真で分かることも

軍手をした手で折り紙を折る(しかもその間「早くしなさい」「遅い!」など言われる)作業では思った通りにできない、それをせかさされ嫌な気持ちになったり焦ったりする体験を通じて、「ああ自分の息子(高等部2年生・自閉症)について言ってしまうなあ、息子は嫌な気持ちだったろうなあ」と考えさせられました。

後半は、地域に限らず全国的にも活動されている4つのキャラバン隊によるシンポジウムがありました。この中でそれぞれの隊の特長なども話されていました。

たつの市の「ピース&ピース」のメンバーは、保護者よりも行政や地域の方が多く、教育現場だけでなく医療現場や警察署にも講演に行っているという話をされました。

市川市のキャラバン隊「空」は「学校プロジェクト」と称し、主に小学校で45分間のプログラムを行っているそうです。

広島市の「あび隊」は幼稚園、保育園などにも、それぞれに合わせたバージョンで行っているとか。(あび隊の詳細は右ページ)

この他にも体験の内容やプログラムの工夫など、各隊、オリジナリティにあふれていました。

長崎にはまだありませんが、長崎独自のキャラバン隊ができて、いろんな所に出掛け、障害のある人たちの世界を理解してもらえたら、本人も地域で安心して暮らせるのではないかと思います。

今まで「特別分科会」という分科会はなかったのでは?と思いますが、これは以前、キャラバン隊の権利擁護セミナーが開催され、それに参加し感銘を受けた北海道手をつなぐ育成会前会長 奈須野氏が北海道の全国大会で是非開きたいという想いで開催されたと聞いております。とても楽しみにしていたのですが、今年1月に亡くなられたとの事です。全国大会並びに特別分科会が無事開催され、天国で喜んでいらっしゃるのでは?と思います。

(長崎県手をつなぐ育成会 事務局員 野澤)



後半のシンポジウムのようす

長崎に“あび隊”が来た～!

「体験してみよう、知的障害 理解してもらおう、知的障害」

長崎市育成会主催研修会

11月23日(木・祝)

県立総合体育館大研修室

全国手をつなぐ育成会連合会の助成を受け、広島県手をつなぐ育成会「あび隊」をお招きして研修会を企画、開催しました。親として、育成会として、知的障害への理解を広めるために私たちがやるべきことを知るヒントになるような、実りある研修会となりました。

「あび隊」のみなさんは知的障害の疑似体験を通じて障害理解を広める講座を開催されており、ここ4年間で出動回数186回、受講者総数は10100名にも上るほど活発に活動されています。対象は一般の方から教員、学生、児童生徒、ボランティアや民生委員など様々です。

疑似体験には「伝わらない、分からない」もどかしさを体験する「あび王国」や、抽象的な指示がいかに分かりにくいかを体験する「絵を描いてみよう」や視覚体験、聴覚体験など、障害のある人が日ごろどれほどの大変さや困難を抱えているかを感じてもらおう内容となっています。



あび・あーび・あび

実際に体験中

「あびあび」としか言えないあび語で懸命に指示されたことを伝えようとする人と、それを必死で理解しようとする人。

「伝えたいのに伝わらない」「分かりたいのに理解できない」障害のある人のもどかしさや苦しさを体験します。

「絵を描いてみよう」では「きちんと」「少し」を絵で表すことを求められ、抽象的な表現が、いかに障害のある人にとってわかりにくいことかを体験しました。



視覚体験…ペットボトルの小さな穴からスクリーンに映し出された絵を見て指定された猫を探します。実はこの時、そばで着ぐるみを着た人がウロウロしていたのですが、視野が狭く、一つのことに集中している為、着ぐるみの人に気づいていませんでした。知的障害の人が一つのことに集中すると周りに注意が行かなくなるという体験でした。

体験者の感想…「視野が狭くて見つけにくかったです。一つのことに集中しているときはまわりのことを感じるのが難しいです。」

聴覚体験では、ざわざわした声がる教室で先生の言っていることを聞き取るという内容でしたが、ほとんどの人が「先生の言っていることが聞き取れない」と言っていました。知的・発達障害のある人は、必要な声を聞き分けることが苦手な人も多く、いろんな音が同じ大きさに耳に入ってくるため、自分の必要な情報を聞き分けられないという体験でした。

今までに体験したことのない、心が動かされる内容でした。参加者からも「子どもの辛さを考えていなかった。」「斬新な体験に感動した。」「言葉で伝えることが本当に難しいと思った。」「知的障害の子どもの気持ちが少しわかった。」「これまでで一番いい研修だった。」などの感想をいただき大好評でした。

障害者施策に関する意見を聴く会 11月14日(火) 県庁本館

長崎県手をつなぐ育成会本人部会「長崎きずな」連絡協議会より、中田匡則さん(ふれあいネットワークピア諫早支部)が進行役を務められ、中島竜之介さん(長崎市育成会)、杉田聖和さん(島原市育成会)、武野裕司さん(ふれあいネットワークピア諫早支部)、梅田房子さん(同)が意見発表をされました。



「障害のある人たちがもっと働きやすい世の中にしてほしい」「たくさんの人に仕事を頑張っている姿を見てもらいたい」「知的障害者の学力は低いけれど、その中でもできることもたくさんあります」「人をもてなす姿勢や、なにげない心遣いの積み重ねを大切にしています」「本人活動や結婚推進事業ぶ～けの活動は楽しい」などの意見や要望を発表されました。

また今年も、各育成会から持ち寄った要望を「長崎きずな」で話し合い、障害者本人の言葉に近い形で整理して、すべて提出しました。県障害福祉課からは桑宮課長をはじめ、自立就労支援班、地域福祉班、管理班、福祉保健課の代表者が出席され、それぞれの担当者が、当日の意見発表及び事前に提出された要望について、丁寧に回答されました。

簡単に叶う要望ばかりではありませんが、継続して要望し続けることが大切です。行政と障害者本人が直接話すことにより、障害のある人の暮らしや悩みを身近に感じてもらう絶好の機会になると改めて感じました。

参加してみても

島原市手をつなぐ育成会 杉田 聖和

11月14日の日に、長崎市の県庁で障害者施策に関する(本人の)意見を聴く会に、参加しました。

私が発表したのは、ネットワークセンターひかりでの仕事と、将来のことについて発表しました。人前で話すのが苦手でしたが、少しずつ意見が言えるようになりました。自分の気持ちを言えるように頑張ってお勉強しています。私は、本人会の「チューリップの会」の会員になってから、自分の意見を言える機会が増えて嬉しいです。他の方の発表で仕事と将来の話を聞いて、『さんらいず』でクッキーを作る仕事をされている方と、『ふれあいネットワークピア』の方が発表された仕事は自分の仕事と違っているけれど、自分もやってみたいという気持ちにもなりました。

最後に、今回の本人の意見を聴く会に参加して、緊張しましたが自分の意見を発表できて良かったです。これからも、色々な場所に参加して自分の意見や考えを伝えていきたいです。

長崎県手をつなぐ育成会と長崎県との意見交換会 10月11日(水) 県庁第2別館

まず県育成会から成年後見制度について質問しました。この制度については、「各市町の取り組むべき内容で、現在も地域格差があり、啓発や後見ニーズの把握、また後見人不足についても、後押しが必要な市町にはしっかり支援していく」と話されました。また、「成年後見センターの設置構想は?」という問いにも、「市町が地域の連携ネットワークを整備し、広報、相談、利用促進等の機能を備えた“中核機関”を市町が中心となって設置していく」という見解が示されました。

次に、地域生活支援拠点については国の施策の通り、「平成32年までに各市町又は各圏域に少なくともひとつ整備するとして、県としても助言や支援をしていく」という回答でした。

最後に第5期障害福祉計画において「意思決定支援についてどのように取り組むのか?」という問いに、「厚生労働省の意思決定支援ガイドラインを活用し、相談支援従事者等の研修を実施することを検討している」という回答がありました。今後の福祉行政は各市町が中心となるが、長崎県の後押しに対し大いに期待したいという実感をもって会を終えました。



講演「はたらく障がい者を支えて」

知的障害者就労支援セミナー

「一緒に生きていった方がいい」 11/30(木) 長崎商工会議所 大ホール



カフェベーカリーぷかぷか
代表 高崎 明 氏

横浜市緑区霧が丘商店街の一角で、現在 40 人の障害のある人が生産と販売を担っている「ぷかぷか」の紹介映像と高崎さんのお話がありました。

それぞれのペースで、しかもみんな笑顔で仕事をしている姿が印象的でした。高崎さんは、そんな彼らと一緒にいると楽しいから事業を始めたそうです。「共生すべき」「差別はいかん」みたいな堅苦しいものではなく、「一緒に生きていく方が人生お得だよ」という感じです。障害のある人と日々過ごす中で感じたことなどをホームページ、Facebook で発信し続けています。

「たくさんの人たちが『彼らとはいっしょに生きていった方がいいね』って、素直に思えるようになったら、お互いが、もっと生きやすい社会が実現するように思うのです」と語られました。

はたらく人の意見発表・意見交換 久保田孝行氏(雲仙) 山田美樹氏(諫早)

久保田さんは、大光食品新湊工場で勤務28年。自分の思いと違うことがあると、すぐにカッとなって投げやりな態度をとってしまう悪いくせを、いつも「冷静になるように」心がけて克服し、『あいさつ』と『与えられた仕事をきっちりやること』を大切に頑張ってきました。今はパートナーとの、「ただいま」「お帰りなさい」という、ちょっとしたやり取りに幸せを感じ、将来は60歳まで会社を勤め上げ、プロの司会者になる夢を持っているそうです。

山田さんは、南高愛隣会就労移行A型事業所ブルースカイで勤務しています。最初は一般企業へ就労しましたが、人間関係がうまくいかなかったことで、職場を変更し、これからはA型事業所を続けていきたいそうです。自分の体調に合わせた勤務時間や個性に応じたプランを調整してもらい、たまには嫌なこともあります。職場の交流会や育成会の食事会などを励みに、充実した勤務になっているとのことでした。グループホームで一人暮らしをして、趣味のライブ観戦、旅行等で楽しんでいるとか。将来は調理師免許をとって、自分が作った料理をたくさんの人に食べてもらうことが夢だと楽しそうに語っていました。



久保田さん

山田さん

～寄稿～ 「意思決定支援への想い」 長崎国際大学 教授 高島恭子



こんにちは。昨年度から「障害のある人の権利擁護・意思決定を支えるための推進会議」の研修会に携わらせていただいております。講義後のグループ討議では一緒に考えていただき本当にありがとうございます。

さて、推進会議では毎回「ご本人さん」が事例を発表し、グループワークにも参加しています。その内容にはいつもはっとさせられ、考えさせられ、学ばせていただいています。そしてその言葉を紡ぎ出す過程に寄り添っておられる支援者の方々にとっても感動します。

「意思決定支援」では、意思決定のために必要な情報を分かりやすく伝え、ご本人さんの好みや望み、意向を受け止めて、ご本人さんが「決める」ことを支援しようとしています。しかし、ご本人さんたちからは「怒らないでほしい」、「自分の意見を最後まで聞いてほしい」、あるいは「自分の意思決定よりも世話人さんの気持ちを大切にしたい」というお話が上がりました。

ところで私にも、「どうしよう」と気持ちを決めかねることがよくあります。そんなとき誰かに相談をするには、そこに安心と安全を感じられることが一番大事なように思います。指図されたいわけではないのです。「ああ、どうしよう」に役立つような材料を示してもらえて、考える過程につき合ってもらえたら嬉しいです。でも一面、ぱっぱと決めたくもあります。決めるには「これでよし」という自信が必要なのです。発表するご本人さんたちは、もちろん緊張しているのですが、発表後は誇らしげに背中から輝くように見えます。「支援」とは付きませんが、本人の力をしっかりと受け止めることが意思決定支援の基本と感じながら、毎回の推進会議での出会いを楽しみにしています。

いきいきと暮らす

～本人部会活動を紹介します～

長崎市 FICS(ふいっくす)

長崎市手をつなぐ育成会の本人部会“FICS”は、平成12年に活動をスタートしました。長崎市育成会40周年記念式典や記念誌で自分の考えを自分の言葉で語ったことで、本人たちの発言したいエネルギーとその姿勢を認め、また全国の育成会での本人部会発足を背景に長崎市でも誕生しました。

“FICS”という名前の由来は、Friend(仲間)、I(わたし)、Communication(意思の疎通)、Society(地域社会)の頭文字をとったもので、発足当時のメンバーの一人のアイデアで名づけられました。「仲間と私が地域社会で仲良く普通に暮らし、本人同士がコミュニケーションをとって社会を変えるための会にしよう」という思いが込められています。

現在では15名のメンバーと2名の支援者で年間計画を立てて年8回、活動をしています。年間計画で決めたテーマをもとにした話し合い活動が中心で、その他親睦を目的としたハイキングやクリスマス会などのイベントや、研修会の主催、広報紙“FICS 新聞”の発行などを行っています。イベントや研修会の前には準備のため臨時で集まることもあります。ここ2年ほどは島原市育成会の本人部会“チューリップの会”との交流も行っており、クリスマス会に招待したりボウリング大会に呼んでいただいたりしています。

発足当時の理事長 山内氏は「代弁は不要。本人たちはちゃんと自分の考えを持っている」と言われ、「本人たちが自ら進んで意見を言うようになること」を強く願っておられました。しかし、多くの本人にとって自分の意見を言うことは難しいことでもありました。

そこで長崎市育成会では発言の体験を積んでもらい、自分の意見を言うことや人の意見を聴くために、全育成が制作した「みんなで知る見るプログラム」を活用し、FICS 主催で研修会を開催しています。

また今年も話し合いの中であがった「ひとり暮らし」についてももっと知ろうということで、実際にひとり暮らしをしている人やグループホームの世話人さんをお呼びして、サテライト型住居やアパートでの暮らしの話をお聞きしました。



親睦会「花見」

平成29年度 FICS 年間活動と計画	
4月	「障害者施策に関する意見を聴く会」へ提出する要望を話し合う＋親睦会(花見)
6月	「悩みについて」というテーマで話し合い
7月	「ひとり暮らしの勉強会」開催
9月	「人生の設計図」というテーマで話し合い
10月	「災害の時にどうすればいいの?」というテーマで話し合い＋クリスマス会の話し合い
12月	クリスマス会
1月	防災体験広場訪問＋新年会
3月	役員改選＋年間活動計画



「ひとり暮らしの勉強会」のようす

自分の思いを言葉にすることが苦手な方もいますが、まずは発言することを目標に、FICSが思いを伝える体験を重ねる場となるよう支援したいと思います。

(FICS 支援者 吉井裕子)

第17回全国障害者スポーツ大会メダル獲得者（知的障害者のみ掲載）

平成29年10月28日～30日まで愛媛県で開催され、長崎県から個人競技32名とソフトボール競技13名、女子バスケットボール競技7名、サッカー競技15名、聴覚バレーボール男子9名が参加し、金メダル4個、銀メダル6個、銅メダル8個計18個を獲得しました。

競技種目	選手名	種目1	種目2
陸上競技	田道 優樹	100m 第3位	
	長浦 信広	200m 第3位	
	内海 未来	100m 第3位	
	山本 清音	1500m 第2位	
	山田 怜也	800m 第2位	1500m 第1位
	谷口 孝太	800m 第1位	1500m 第3位
水泳競技	北村 拓海	50m 自由形第2位	25m 自由形第1位
	賀村 友理	25m 平泳ぎ第2位	50m 自由形第2位
卓球競技	山野田 宥希	一般卓球第3位	
	富永 里菜	一般卓球第3位	
フライングディスク競技	琴岡 淳一	ディスク第1位	
	松尾 誠	フライング第2位	
ボウリング競技	山田 茂樹	壮年男子第3位	
	佐々木文次郎	壮年男子第3位	

全国障害者スポーツ大会に参加して ボウリング競技・佐々木文次郎（長与町）

山田君と森さんと三村さんと藤原コーチで、バスで別府まで行き、フェリーで八幡浜に着きました。バスハイクが好きだから、楽しかったです。

コーチも、愛媛のボランティアの人も、良くしてくれました。会場は人がいっぱい、緊張したけど、メダルが取りたかったのががんばりました。

旭屋で3位の報告をしたら、社長さんがケーキでお祝いしてくれました。親せきもお祝いしてくれて、嬉しかったです。（談）



松山城前で長崎県選手団(ボウリング)と。前列右が佐々木さん

知的障害児者・自閉症児者のための 生活サポート総合補償制度

（年間掛金）Aプラン：17,000円、Bプラン：23,000円

入院給付金 個人賠償責任保険金 葬祭費用保険金

死亡・後遺障害・入院・通院・手術の各保険金

2016年4月より 新プラン誕生！！

新プラン（Bプラン）の主な特長は

★入院給付金 2日目から補償

★個人賠償 最高3億円まで補償

★ケガの入院を日額5,000円、通院を3,000円補償

既往症、てんかん発作など知的障害児者・自閉症児者の方が抱える様々なリスクを補償するために開発された制度です。

パンフレットのご用命は下記事務局または担当代理店へお問い合わせください。



（事務局）ながさき知的障害児者生活サポート協会

TEL：095-893-5503 FAX：095-814-1778

（担当代理店）ジェイアイシー九州

TEL：092-791-7561 FAX：092-791-7562

《 長崎県手をつなぐ育成会行事のお知らせ 》 3月まで

行 事	月 日	場 所	概 要
障害のある人の 権利擁護・意思決定を 支えるための推進会議	1月20日(土)	時津町北部 コミュニティセンター	13:00～13:20 開会行事 13:25～13:10 講話「意思決定支援について」 長崎国際大学教授 高島恭子氏 14:15～14:40 事例発表 14:45～16:30 グループ討議など
役員研修会	2月9日(金)	長崎県歯科医師会館	13:10～14:40 講話「育成会の課題とこれから」 全国手をつなぐ育成会連合会 会長 久保厚子氏 14:55～16:55 グループ討議発表 「育成会組織を活性化するために」
家族支援 フォローアップ講座	2月23日(金)	諫早市社会福祉会館	13:00～16:00 内容 検討中
本人部会「長崎きずな」	2月25日(日)	長崎県総合福祉センター	11:00～13:00 九州大会本人部会の 発表者について 1年間の反省、次年度に向けて
無料法律相談 (成年後見制度・遺言)	1月24日(水)	佐世保市山澄地区公民館	13:00～14:00 大村さくら法律事務所 弁護士 曾場尾雅宏氏 講話
	2月1日(木)	五島市福江文化会館	14:00～14:30 質疑応答 14:30～ 個別相談(何でも可)



「手をつなぐ」は、知的な障害のある当事者(本人・家族)に関する教育・福祉・労働等々の諸施策を中心に、全国手をつなぐ育成会連合会が編集・発行している月刊誌です。文字どおり、全国の仲間が「手をつなぐ」ために役立つ情報誌です。年間3,900円 B5版48ページ

長崎県手をつなぐ育成会までご連絡ください。

申込みは TEL 095-846-8730 FAX 095-846-8738 へ

特別支援教育を必要とされている方のために生まれました。

広告

ぜんちの
こども傷害保険

個人賠償 弁護士費用 ケガ入院・通院

権利擁護補償付傷害保険(2015年創設)

- ◎ 個人賠償責任補償
- ◎ 権利擁護費用補償 (弁護士費用)
- ◎ ケガでの入通院保障



特別支援学級に通う児童・生徒のために開発された、障がい児のための専用保険です。知的障がいや発達障がいのある子どもたちを、事故や虐待被害などからお守りし、安心した学校生活を送っていただけます。

詳しい資料のご用命は、下記代理店にお願いいたします。

○取扱代理店

有限会社 トータルサービス(担当:向井)
TEL 095-832-2430 FAX 095-832-2580

〒850-0033 長崎市万才町6-35 三井生命長崎ビル5階

*この広告は商品の概要を説明しております。ご契約の際には必ず「パンフレット」「重要事項説明書」をご確認ください。

○引受保険会社

ぜんち共済株式会社

関東財務局長(少額短期保険)第14号

〒101-0032

東京都千代田区岩本町3丁目5番8号

岩本町シティプラザビル5階

http://www.z-kyosai.com/